

国語 小学校第1学年 『おおきなかぶ』

音読での活用

朗読音声再生

外部出力

ひらがなを習って間もない児童にとって音読をすることや朗読を聞くことは難しいことがある。デジタル教科書の朗読で読んでいる部分に色が付く機能により、どこを読んでいるかがわからなくなっている児童にも視覚的な支援に繋がる。

また、とても感情が込められた音声を聞くことができるので、児童も登場人物の気持ちや言葉を想像しやすくなるという利点がある。何度も朗読を聞き音読を繰り返すことで、児童は自然と強く気持ちを入れる読み方や優しく読むなどができるようになる。

さらに、デジタル教科書は大きな挿絵を掲示することができるので、より一層子どもたちの想像を膨らませることができる。



おおきなかぶの挿絵を大型テレビで提示している

国語 小学校第5学年 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

音読での活用

朗読音声再生

児童にとって初読するには長く難しい物語を、デジタル教科書内の音声機能を使用することで、正確かつなめらかな朗読を聞くことができ、物語の全体像を捉えやすくなる。

特に漢字の読み方が分からない児童にとっては、支援の力は大きい。

また、朗読の速度を自由に調整することができ、その児童に合った朗読の速さで理解を深めることができる。

さらに、読んでいる箇所が色で示されることにより、視覚的にもわかりやすく物語を理解しやすい。

音声機能を使用することで、読み進める時間を統一することができ、授業計画の見通しを立て易くなる。



物語を音声機能を活用して読み進める様子

国語 小学校第5学年 物語の全体像をとらえ、考えたことを伝え合おう

個別学習での活用

書き込み

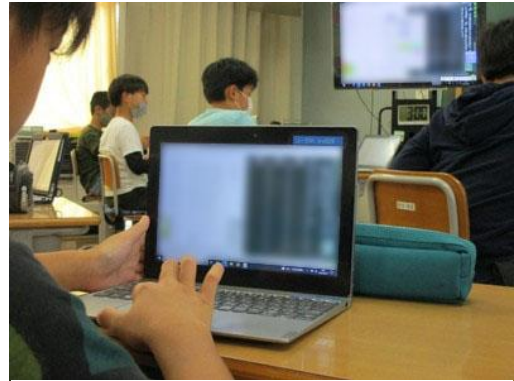
文字抽出

動画再生

図形等操作

デジタル教科書を活用して、「たずねびと」の授業を次のように進めた。

- ①登場人物等を確認、マイ黒板を使い心情の変化をまとめる。
- ②原爆ドームの写真や平和公園の動画を見てイメージをもたせる。また、3人の登場人物をデジタルの地図上で動かし、話の流れを理解する。
- ③一人一人がマイ黒板の付箋に自分が読み取った考えを書き込み、場面の表に貼り付ける。
- ④学級全員で貼り付けた考えを共有する。



個々の考えを引き出す活動

デジタル教科書を用いることにより、読み取りが苦手な児童にとって場面の把握がしやすくなった。また、他の児童のまとめを視覚的に参照することができ深い学びにつながった。

国語 小学校第5学年 物語の全体をとらえ、考えたことを伝え合おう

家庭学習での活用

拡大縮小

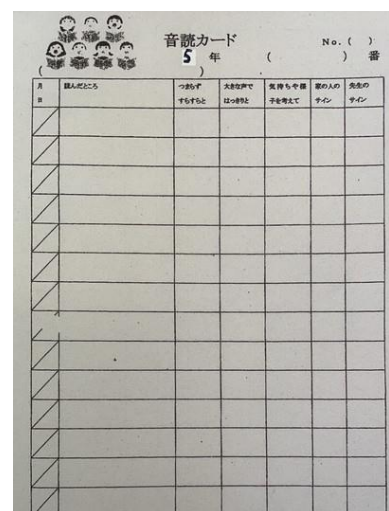
文字色背景色変更

朗読音声再生

デジタル教科書が入ったタブレット端末を持ち帰り、国語科の音読の家庭学習に取り組むようにした。

利点は、音声読み上げ機能があり、読み方を知らない漢字を調べられることや文字のピンチアウト、文字色や背景色の変更等、学習者に適したものを設定することができることである。

「たずねびと」の学習では、朗読の手本としてデジタル教科書の音声を聞くことにより、抑揚をつけ、感情を込めて読むためのよいツールとなった。



家庭学習に使った音読カード

国語 小学校第5学年 詩の楽しみ方を見つけよう

個別学習・家庭学習での活用

書き込み

気に入った詩を一つ選び、おもしろいな、いいなと思った理由を交流する際のツールとして学習者用デジタル教科書を活用した。

一人学びの際におもしろいな、いいなと思った文に線を引き、書き込みを行った。比喻や対比などの表現の工夫について書く場合は、色分けを行い、視覚的な支援を図った。ライン機能を使うことで、色や種類を変えて、きれいに線を引くことができ、引き直しが容易であった。

家庭学習の際、紙の教科書でなく、端末を持ち帰り、デジタル教科書で音読を行うことで、家庭へ持ち帰る荷物を減らすことができた。

活用の際の留意点は、画面から30cm以上離して使うよう毎回声かけをし、適切な利用ができるよう促している。



ライン機能を使って学習を進める様子

国語 小学校第5学年 問題を解決するために話し合おう

日本語支援での活用

ふりがな表示

本学級には日本語指導を要する児童が在籍しており、市の子ども多文化共生ボランティアによる支援を受けている。文字を十分に読めないことや、文化の違いや経験のなさから課題の解決に至らないことがある。また、それが起因となり、授業に対しても消極的な態度になることがあった。

そこで、デジタル教科書にあるフリガナ付きの本文を使用すると、内容をよく理解することができ、学習に対して意欲的に取り組むようになった。また、周囲の児童も、デジタル教科書の多様な使用方法を知り、興味をもって学習に取り組むようになった。

このように、文字理解等が苦手な児童にとってデジタル教科書は、自ら進んで学習に取り組んだり、自分の力に応じて学習を進めたりできるものであると考える。



本文のふりがな機能を活用して音読する様子

国語 小学校第5学年 書き手の意図を考えよう

個別学習での活用

書き込み

拡大縮小

A社とB社それぞれの新聞記事から、各社の記者が伝えたい内容の違いを読み取る学習において、「見出し」は赤、「リード文」は青、「本文」は緑、というように分類した上で、記者が特に伝えたいことに線を引くことで視覚的に整理することができる。

また、その作業を通して共通点を見つけることもできる。

たとえ間違っただとしても、容易に書き換えることができるので、児童の負担は小さいと考える。

さらに、デジタル教科書は拡大することが可能なので、写真を細部まで観察することができ、使われている写真の様子からも記者が伝えたいことを読み取ることができる。



記者が伝えたいことに印をつける児童

国語 小学校第5学年 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

説明的な文章教材での活用

動画再生

『固有種が教えてくれること』の導入部分で、作者「今泉忠明」さんからのメッセージ動画視聴やアマミノクロウサギ、ニホンカモシカの画像を見ることで、教材についての関心をもたせた。

また、各段落でどんな事がらが書かれているかを考える手立てとして、段落分けや各段落の大切な部分をデジタル教科書の機能を使ってチェックさせた。

そして、それをもとにして、タブレット上で、各段落に簡単な見出しをつけて整理し、「初め」「中」「終わり」のまとまりに分けた。

タブレット上で学習を進めることで、やり直しをすることが可能である。単元の後半では、二次元コードから、学習に役立つリンクの「希少な野生生物種（環境省）」や、「環境白書（環境省）」のページを見ることで、学びを広げ、深める。



資料を活用し、発展的な学習につなげる活動

国語 小学校第5学年 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

文章の構造を把握する場面での活用

書き込み

文字抽出

外部出力

文章の構造と内容を把握するため、各段落の要点の書かれている文を抜き出す活動をデジタル教科書を使って行った。意見を見比べるために、友だちの考えをデジタル教科書の黒板機能に貼り付け、並べて見比べながら、要点はどこかを確かめた。また、説明文の「初め」に書かれてある筆者の考えを併せて貼っておくことで、要点を見つける際の視点を意識させることもできた。



要点の書かれている文を抜き出す児童

さらに、各段落の見出しを付箋機能に書いて黒板機能に貼り並び変えることで、文章の構造を捉えることができた。いつもは、チョークで黒板に書くため時間がかかるので進度も遅く、児童の集中が途切れる原因にもなっていたが、デジタル教科書は意見をすぐに反映でき、並べて整理することが容易にできるので、児童の気づきの助けになる。

国語 小学校第5学年 資料を用いた文章の効果を考え、それをいかして書こう

「導入・活動」の場面での活用

書き込み

ドリル問題

デジタル教科書を「導入」と「活動」の2つの場面に使用した。

導入では、毎時間の国語の学習の際に「漢字フラッシュカード」と「ワーク」を使った。

漢字フラッシュカードは単元で出てくる新出漢字がランダムで表示されるので、児童に読み方を答えさせた。ワーク「まとめよう」のツールを用いて、各段落には何が書かれているのか確認させた。どちらも所要時間は3分ほどで、毎時間ははじめに取り入れ繰り返し行うことで、基本的な部分の定着が図れたと感じた。



「漢字フラッシュカード」での導入場面

「活動」の場面では、各段落の小見出しをつける時に、アナログの教科書に書き込ませるのではなく、デジタル教科書に線を引かせ、使いたいキーワードを見つけさせた。何度も書き直しができる、様々な色を使い分けられるという点で良さを感じた。

国語 小学校第6学年 登場人物の関係をとらえ、人物の生き方について話し合おう

個別学習での活用

ふりがな表示

書き込み

朗読音声再生

文字抽出

国語科では、多くの単元において、「読み上げ機能・ルビ振り機能・書き込み機能」などの様々な機能を活用することで、個別最適な学びを実現する。

また、最大の特徴である本文抜き出し機能「マイ黒板」を活用することで、自分の読み取りを可視化することができる。この機能は、従来はノートに書き写していた本文を「マイ黒板」上に自由に抜き出すことができ、自分の考えを付箋で書き加えることができる。その本文は移動・修正が容易であるため、構造化して文章を読み取ることに適している。このように、児童の考えの可視化・構造化が成されることで、主体的な話し合いにつなげることができる。振り返りでは、協働的な学びから個の学びへと戻り、加筆修正し再構築することでより深い学びへとつながっている。



マイ黒板を活用した構造的な学び

国語 中学校第1学年 『聞き上手になろう』

個別学習での活用

動画再生

文字抽出

「林さんの話」の動画を視聴し、林さんへの質問を考える活動を行った。

まずは大型モニターで一斉に、その後は個別にデジタル教科書を用いて、繰り返し動画を視聴した。考えた質問は、デジタル教科書の思考ツールを用いて整理させた。思考ツールは、付箋紙を使用するよりも、加筆修正や並び替えが容易であり、色分けをすることも可能である。その利点を生かし、質問を分類し、効果的な質問の順序を考えさせた。

デジタル教科書には、教科書の二次元コードとは異なる動画が収録されている。今回はデジタル教科書にある、質問の種類について詳しく述べた動画を見ることで、2つの質問がどのようなものなのか、具体例とともに考えさせることができた。



思考ツールを使っている児童

国語 中学校第2学年 『枕草子』

暗唱練習での活用

ドリル問題

古典暗唱となると、苦手意識が高くなり教科書だけでは取り組みづらい。しかし、本教材の「まなぶ」の中の「ワーク」内には生徒のレベルに応じた暗唱練習ができるソフトが入っており、個人の練習には最適であった。「枕草子」の授業時の導入として5分間の個人練習を行った。そのときにこのソフトを用いることで生徒自身が黙々と練習できた。



個々のレベルに応じて暗唱する生徒

また、レベルごとに分けられていることから、向上心を持たせることができた。苦手としている生徒にとっても周囲と合わす必要も無いため、導入部分の取り組み方も意欲的だったように感じる。全体で確認する際も各自がタブレットを開けたままで不安部分を確認しながら行えたことで、声が小さくなることなく暗唱練習することができた。

国語 中学校第3学年 『故郷』

読解場面での活用

資料閲覧

「故郷」を教材として扱うにあたり、本作品の内容の理解を深めさせるためには、時代背景を押さえる必要があった。

その作業を進めるうえで、魯迅の生涯をデジタル教材を利用しながら確認させた。

また、登場人物の心情を考える際には、個々の人物像を理解するだけでは、深く考えることができないために、「まなぶ」の「ワーク」を使って人物相関図の作成に取り組みさせた。



作成した人物相関図で意見交流をしている様子

作業を通して生徒たちは、登場人物の置かれている立場や境遇を理解することができ、その状況から至った心情を考える手立てとすることができていた。

デジタル教科書の導入に関しては、毎時間というわけにはいかないが、教材理解を深めるためにも効果的に使っていけたらと感じた。

国語 中学校第3学年 『人工知能との未来/人間と人工知能と創造性』

要約場面での活用

書き込み

朗読音声再生

外部出力

本文を要約する際に本文を投影し、要約のキーワードやポイントを直接書き込んで提示することによって、キーワードの場所や、前後の文の関係が一目でわかり、生徒の理解が進んだ。

また、プロジェクターを通して音声を流し、本文の通読に活用し、どこを読んでいるのか、視覚に訴えた示し方ができ、集中力が増した。授業の準備物として、CDデッキを持ち歩く必要がなくなり、教員の負担が減った。



書き込みを行った本文を提示